

シャープネスを高めて金属感をリアルに再現する

時計やアクセサリー、ガラス製品などの静物写真は、被写体のエッジ部分のシャープネスを高めることで素材の質感をいっそうリアルに表現できる。「ハイパス」フィルタを使用し、硬質な素材感を強調する方法を紹介しよう。

Photoshop 7.0~



完成画像

STEP
1

元の写真。ピントはきっちりと合っているが、金属の質感表現はやや不足気味だ。

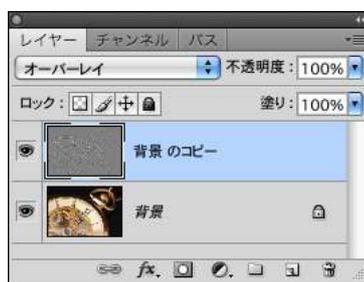


STEP
2

まず、レイヤメニュー→“レイヤーを複製”にて“背景レイヤー”を複製し、“背景のコピー”を作成（保存先はそのまま）。レイヤーの描画モードを[オーバーレイ]に設定する。



STEP 3 フィルタメニュー→“その他”→“ハイパス”を選択。半径の数値を高くするほど、シャープネスが強くなる。ここでは「半径：5.0」と入力。



STEP 4 写真全体にシャープネスが加わり、メリハリのある表現となった。このままでもいいが、ブラシツールを使ってシャープネスを部分調整すると、いっそう効果的だ。



STEP 5 ツールパレットの描画色をクリックしてカラーピッカーを開き、[H (色相) : 0]、[S (彩度) : 0]、[B (明度) : 50] に設定する。これによって描画色が50%のグレーになる。



※クリックで拡大します

STEP 6 ブラシツールで写真の上をドラッグすると、ドラッグした部分のシャープネスを抑えられる。適度になるまで調整する。



ブラシツール



オプションの設定画面

※クリックで拡大します



STEP 7 完成した写真。なお、描画モードを【ソフトライト】にして全体のシャープネスを弱めにしたたり、【ハードライト】にして全体のシャープネスを強めにも可能だ。

